

平成27年4月6日

南の風 118

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

117号の続きです。

林氏は、「体格や高さで劣る日本人のセンターでも、スクリーンを使って2対1から1対0をつくることによって欧米人と勝負できる。」と語っています。スクリーンプレイを正確に行うことによって、スペースを広くとってユーザーとスクリーナーの協力で、アウトナンバーのディフェンスを攻撃することを提唱しています。

エイトクロス・オフenseは、パターンオフenseと思われがちですが、プレイヤーが決められた通りに動くのではなく、ディフェンスの状況を見ながらプレイヤー自身が、プレイを選択していくモーションオフenseです。林氏はこのプレイを始める時に二つの約束を示しています。

- ①パスを受けたら2カウントはゴールに正対してシュートを狙う。これはディフェンスに油断があればシュートをするのと同時に、スクリーンやカットによってできるチャンスを生かすことを可能にすると考えている。
- ②ボールサイドはパスミートやポップアウト、逆サイドはアウェーする。オフenseの展開で大事なことは、ボールマンが攻撃状態なのか、つなぐことを必要としているのかを見極めて、ボールミートをタイミングよく行うことである。

以下、スクリーンプレイからのアウトナンバー攻撃や、2対2や3対3への合わせについて研究される方は、林永甫氏のDVD（『Zone Defense and Zone Offence RJB10 MAN to MAN Offence』 株式会社ヘルツ 大阪 2008）を参照してください。

エイトクロス・オフense戦法の基本的なスキルとして、スクリーンを『正確に掛ける』ことがあります。スクリーンの基本的な掛け方については、私の作成したDVDⅢの中にも収録してあります。よろしければ参考にしてください。

何回か南の風にも書きましたが、スクリーンプレイはたいへん合理的なプレイです。正しい掛け方と使うタイミング、そして判断が求められます。チームオフenseに取り入れる場合は、根気強く合わせの練習してください。

さて、WJBLのファイナル第3戦をJX-ENEOSが制し、見事優勝しました。3連勝のスイープでした。これで、**JX-ENEOSはリーグ7連覇です**。結果はJX-ENEOS 60対56 富士通レッドウェーブでした。JX-ENEOSはオールジャパンの優勝と合わせ、**2冠達成**です。

簡単にレポートします。「JXは2連勝で優勝に王手をかけています。富士通は後がありません。前半は、富士通がディフェンスを頑張り、町田、篠崎、長岡らの活躍で得点を重ねる。JXは渡嘉敷、宮澤のシュート、吉田のスチールやパスで反撃するが流れを掴めない。37対26で富士通がリード。

後半は10点差の攻防が続く。JXは間宮、渡嘉敷のインサイドで残り5分50秒で追いつく。さらに宮澤、渡嘉敷のシュートで初めてリードする。最後は、富士通町田のレイアップを渡嘉敷がブロックし激闘に終止符が打たれた。」見応えのあるゲームでした。富士通は惜しいゲームを落としました。